

第1回尼崎らしいまちづくりのルールを考える検討会議 意見のまとめ (H28.2.7)

前文

- ・本条例を今つくろうとする意義を表現しないといけない。市民、特に若い世代を中心に、要求は多いが行動は伴わない人が多いと思う。そのような状況にどのように対応するか。そのために条例が必要ということ表現した方が良い
- ・職員がすべきことを認識するというのが、この条例の重要な点であると思う。行政の意気込みを書く必要がある
- ・行政も市民と一緒に変わっていくということを書いた方が良い。時代の変化はわかったが「ではどうするのか」を書く必要がある。その点の書き振りを厚くしていければ
- ・まだまだ行政は縦割りである。目的によっては、それぞれの部署の視点を共有する必要がある
- ・「まちの成り立ち」はコンパクトに書いて、「これからどのようなまちづくりをしていきたいのか」を表現できれば良い
- ・9月上旬程を目指すのは、市制100周年を意識してのことだと推測するが、本条例に規定することが絵に描いた餅とならないようにシステムもしっかりつくっていく必要がある
- ・「本市」「尼崎市」など文言にばらつきがある。調整が必要
- ・尼崎の自治の歴史、コミュニティの成り立ちを前文にしっかりと盛り込む
- ・「つながりの希薄化」は進んでいるものの、地域団体や事業者が取り組んできたこともある。その部分の表現が抜けている
- ・近代化の流れの中で企業が基盤整備の一翼を担ってきたということも本市の特徴である。大企業が立地し、福利厚生を企業が担っていたという面もある。市民、行政だけではなく事業者の存在も表現した方が良い

目的

- ・文章がコンパクトであるので、前文には書ききれないことをここで表現することも一案である。本当はここに市民、事業者、行政が取り組むべき方向性を入れられたら良い

定義

- ・住民、市民について
「子ども」も住民・市民に含まれているということを明記した方が良いのではないか
- ・市民活動団体について
社協もここに含まれていると思うが、この書き方で伝わるかと言われれば難しい。固有名詞を列挙することも1つの方法ではあるが、それに限定されてしまうデメリットがある
- ・行政について
行政組織をここまで列挙して書く必要はないのでは。市民が理解するのは難しい
→条文上は難しい表現になることも一定やむを得ない面がある。一方、市民向けには分かりやすいパンフレット等を作成することを考えている（事務局）
監査委員会など、首長から独立した機関も行政職員が担当しているので、解説の中では、その仕組みを分かりやすく説明できれば良い

- ・参画について
「参画」は、市民だけがするものと捉えられてしまわないか。行政、事業者も行うものであることを明記した方が良い
「行政は門戸を開き」などといったニュアンスを入れるのも良いのではないか
- ・協働について
「分かり」は「理解しあい」の方が良いと思う
定義をもう少し軽くして、原則の項目で表現することも一案である
- ・シチズンシップについて
日本語にできるのであればその方が良い。「公民」という言葉が一番合っていると思うが、一般的に「公民」の本来の意味が十分に理解されていないので悩ましい
シチズンシップだけ急に「尼崎市民として」と限定した定義になっているので整理が必要である
- ・コミュニティという言葉もここで定義した方が良いのではないか
- ・「まちづくり」と「コミュニティ活動」という言葉の使い分けについても、今後整理できれば良い
- ・「定義」以降の項目でどのような使い方をしているかも含め、今後、表現を整理していく必要がある

自治の基本理念

- ・この表現では全ての団体が、全ての情報を共有するということになってしまうのではないか。
「市政やまちづくり」の情報を可能な限り「共有」という意図とのことだが、表現の工夫が必要
- ・自治が進めば、権限の委譲が必要になる
- ・熊本市の基本理念では、より抽象的な表現をしている。他都市も参考にしながら整理してはどうか

情報共有の原則

- ・「共有されなければならない」とあるが、自動的に共有されるものでもないので、客観的表現より主体的な表現に変えた方が良い
- ・「個人情報に触れない範囲で」は「法令に反しない範囲で」に修正した方が良い
- ・闇雲に発信するだけでは効果が薄い、個別に発信するのも手間がかかる。ついては、キーとなる団体やキーパーソンに向けて重点的に発信する工夫がいる。「届ける」という概念が必要
- ・「オープンデータ」の考え方に関わってくるところだが、行政が持つ情報は公開されているものの、活用しにくいのが現状である。情報も見つけにくく、まとまっていない
- ・本文には、「わかりやすく提供」と書いておき、解説で説明しても良い。また、情報公開条例など他の条例との整合を図ることも必要
- ・（他都市に遅れて策定するものなので）市民同士が情報交換できるプラットフォームを行政がつくる、といったことも書き込めれば良い

参画の原則

- ・「参画」に関しては主体によって取り組むことが違うのではないか。主語の書き分けが必要ではないか
- ・「参画」と「協働」が上手くつながっていない。「参画」した人が行動を起こせるように後押しすることも必要であり、参画から協働への橋渡しが重要となる。「制度や場の提供」などで行政が少し後押しすれば、活動につながっていきそうなケースもしばしば見られる。俯瞰的な制度の設計が十分できていないと感じる
- ・「参画の機会」だけでは不十分であり、「協働につなげていく」ということを表現できれば良い
- ・参画、協働ともに押し付けにならないようにするため、参画のメリットのようなことも書けたら良い
- ・何のための参画なのかをもう少し丁寧に書く必要があるのではないか

協働の原則

- ・「透明性の確保」、「検証」「評価」の対象が少し不明確なので、書くのならばもう少し具体化した方が良い
- ・現案は、市民と行政の協働に関する記載であり、ここには事業者は入っていないように読める。一方で主語を「尼崎に関する全ての主体」という説明をされてもわかりにくい
- ・（現案のように）協働の全ての要素を原則の項目に入れる必要はないと思う。たとえば「自己変革の受容」まで入れる必要があるかどうか。「知恵と力を持ち寄り」など他都市の表現を参考にしても良い